

ベートーヴェン生誕250年記念

ベートーヴェン・イヤーに集った、日本の至宝3名!! 究極の「楽聖」を体感する、奇跡の時間

オリンピック・イヤーとしても注目の2020年は、楽聖・ベートーヴェンの生誕250年でもある。だからこそ、ニューヨークと日本を行き来し海外アーティストからの信頼も厚い超実力派ピアニスト・江口玲、元N響コンマスにして現在も各地で大活躍するヴァイオリンの徳永二男、そしてチェロ界のみならず日本音楽界のまぎれもない「首領」であるチェロの堤剛—日本の至宝たる3名が満を持して集うのに、これほどふさわしいタイミングはないだろう。

演目選ばれたのは、音楽史にその名を刻む名作3曲だ。美しい旋律により最も親しまれた作品として知られる「春」、チェロの機能性、叙情性を追求した意義深いチェロ・ソナタ第2番を実力者江口のサポートによって徳永、堤と順に聴ける贅沢さは垂涎もの。そしてメインではベートーヴェン全作品の中でもことさら高貴な響きを持つ大作「大公」が3人によって披露されるというのだから、たまらない。これ以上は考えられない、至高のプログラムだ。

ベートーヴェン・イヤーだからこそ実現する、このプロジェクト。名手3人を引き合わせてくれた楽聖に感謝しながら、じっくりと聴きたい。



©ヒダキトモ

徳永二男 (ヴァイオリン)

Tsugio Tokunaga, Violin

人気、実力ともに日本を代表する音楽家。日本楽壇史上最年少のコンサートマスターとして東響に入団。ベルリンへ留学。1976年N響のコンサートマスターに就任し、長くソロ・コンサートマスターを務めた。N響在籍中より欧米に招かれて演奏。94年N響退団後、ソロや室内楽のほか、国内主要オーケストラをはじめモントリオール響、イギリス室内管、ウィーン室内管などと共演。92年より鎌倉芸術館ゾリステンを主宰。96年から宮崎国際音楽祭の総合プロデューサーを経て2011年から音楽監督を務める。16年度文化庁長官表彰を受ける。CDは、ベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ全曲集など多数リリース。最新盤は、「Tango」。桐朋学園大学特任教授。



©鍋島徳恭

堤剛 (チェロ)

Tsuyoshi Tsutsumi, Violoncello

名実ともに日本を代表するチェリスト。桐朋学園園子供のための音楽教室、桐朋学園高校音楽科を通じ齋藤秀雄に師事。1961年アメリカ・インディアナ大学に留学、ヤーノシュ・シュタルケルに師事。同年ミュンヘン国際コンクール第2位、カザルス国際コンクール第1位入賞。2009年秋の紫綬褒章を受章。2013年、文化功労者に選出。アメリカ・イリノイ大学教授(1984~88年)、インディアナ大学教授(1988~2006年)を歴任し、現在、桐朋学園大学特命教授(前学長2004~2013年)、韓国国立芸術大学客員教授。2007年よりサントリーホール館長。2009年9月よりサントリー芸術財団代表理事を務める。韓国国立芸術大学客員教授、日本芸術院会員。



©堀田力丸

江口玲 (ピアノ)

Akira Eguchi, Piano

東京藝大作曲科、ジュリアード音楽院ピアノ科大学院修士課程、及びプロフェッショナルスタディーを卒業。その後、欧米及び日本をはじめとする各国でのリサイタルや室内楽、協奏曲の他、ギル・シャハム、諏訪内晶子、竹澤恭子、アン・アキコ・マイヤース等、数多くのヴァイオリニスト達と定期的に共演。数多くのレコーディングでも高い評価を得ている。現在は東京、ニューヨークと二つの拠点を行き来し、国際的な活躍を続ける。作曲・編曲者としても実力を備えた大胆な解釈と表現技法で国内外を問わず活躍を続けている。現在、洗足学園音楽大学大学院客員教授、東京藝術大学教授を務めている。

Beethoven 250th Anniversary of Birth